

3 地域の農業を担う多様な担い手の活躍の支援

○移住・定住対策と連携した移住就農の促進、新規就農者や女性農業者等に対するスキルアップ支援、戦略的な農業参入企業の誘致を行います。

○担い手への農地集積を加速化させるとともに、担い手の経営発展に向け、各ニーズに応じた基盤整備に取り組みます。

- ⑪新規就農者の確保・育成と担い手のスキルアップ支援
- ⑫企業等の農業参入の促進など意欲ある担い手の確保
- ⑬女性が活躍できる環境整備
- ⑭担い手の経営発展に向けた農地集積等の促進
- ⑮多様な担い手のニーズに対応した農地整備の推進



首都圏等での就農相談会



農業経営の6次産業化研修



女性農業者の経営企画力向上研修

4 地域の強みを生かした里山の振興

○里山振興ファンドによる生業づくり支援の拡充や、世界農業遺産認定のメリットを生かした地域の魅力発信に取り組むとともに、「石川型スローツーリズム」を推進します。

- ⑯多様な地域資源を活用した生業づくりの推進
- ⑰スローツーリズム等による人を呼び込む農村づくりの推進
- ⑱農村の多面的機能の発揮と安全・安心な地域づくりの推進



1 策定の方針

農業は、私たちの生存に必要不可欠な食料を供給する、なくてはならない産業です。

また、農村は、国土・自然環境の保全、良好な景観の形成、文化の伝承といった多面的な機能を有しています。

このような農業・農村の健全な発展を図ることが、豊かで安定した県民生活を実現し、明日を支える子供たちに確かな県土を残すまでの基本であることは言うまでもありません。

県では、平成18年に「いしかわの食と農業・農村ビジョン」を策定し、元気ないしかわ農業の実現に向け、体系的に各種施策に取り組んできました。この結果、食育・地産地消、農産物のブランド化、新規就農者の育成、環境保全型農業の推進等で一定の成果を得たところです。

しかしながら、本県農業の主力品目である米の価格の下落や、野菜・果物の価格低迷等により、農業者の経営は厳しさを増しているほか、農業者の高齢化や農業の担い手不足が進み、鳥獣被害の増加等も相まって、里山の荒廃が懸念される状況となっています。

こうした中、持続的に、県民・消費者へ安全・安心な県産農産物を供給するとともに、里山地域の有する豊かで多面的な機能を發揮していくためには、農業を魅力ある産業へと成長させることと併せ、農村を美しく活力ある地域として維持・発展させることが最大の課題です。

新たなビジョンでは、こうした状況を踏まえ、収益性の向上や多様な担い手の確保を進めて農業の成長産業化を促進するとともに（産業政策）、農業以外の多様な収入源を確保して農村地域の活性化を図り（地域政策）、これを車の両輪として、農業・農村の振興に向けた施策を展開いたします。

2 期間

新たなビジョンは、平成37年度を目標年度としていますが、社会情勢やビジョンの進捗状況を踏まえて見直しを行う観点から、5年後（平成32年度）を目途に進捗と成果を検証し、必要に応じ、ビジョンの内容を見直すこととします。

3 構成及び効果的推進にあたっての留意点

- ①新たなビジョンは、4つの「施策の柱」、18の「重点課題」で構成しており、重点課題毎にこれを実現するための各種施策を記載します。
- ②各種施策の達成状況等は、施策毎に行う行政評価により行うこととし、情勢の変化に応じて、適切に目標及び施策の見直しを行います。
- ③ビジョンに掲げた内容を確実に実現していくため、各農林総合事務所において、市町、JA等の関係機関・団体と連携し、地域における取組状況を検証します。



いしかわの 食と農業・農村ビジョン 2016

—概要版—



1 次世代に向けた他産業との連携による農業の収益性の向上

○「ものづくり産業の集積」という本県の強みを生かした新たな発想を導入します。

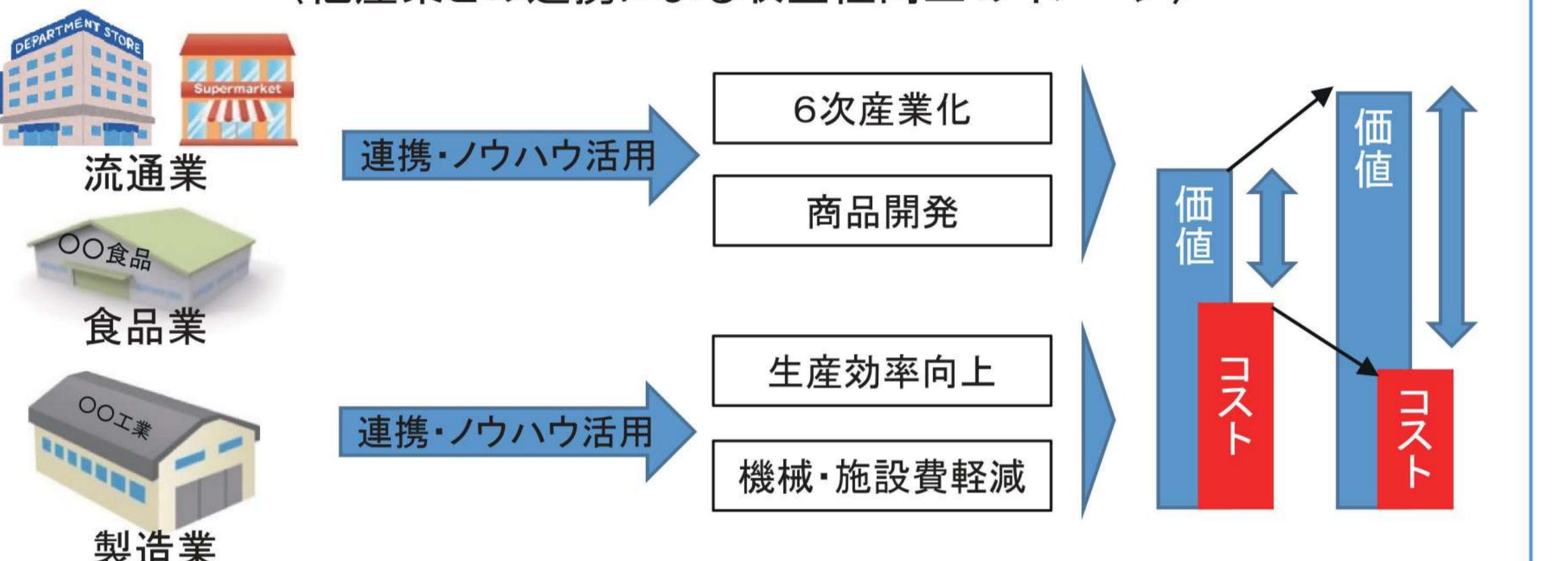
○長期的な視点に立った新品種や新技術を開発し収益性を向上させます。

- ①企業等の技術・ノウハウを生かした生産性向上の取組みの推進
- ②食品産業と連携した新商品開発等の6次産業化の推進
- ③気候変動に対応し得る新技術の開発と普及



多機能ブルドーザーで耕起～播種まで作業

〈他産業との連携による収益性向上のイメージ〉



2 ニーズの変化に対応した生産・販路の拡大と海外展開

○水稻単作から野菜等との複合化・多角化への転換、消費者ニーズ等に対応した県農畜産物の安定生産・出荷、ブランド化による付加価値向上を推進します。

○首都圏等でのさらなる販路開拓、インバウンド消費も含めた輸出の取組みを進めます。

④農業を取り巻く情勢の変化に対応した複合化・多角化の推進

⑤需要者のニーズに対応した生産・販路の拡大

⑥特色ある農畜産物のより一層のブランド化の推進

⑦食文化の総合力を生かした県産食材の海外展開

⑧環境と調和した農業の推進

⑨幅広い食育と地産地消の推進

⑩県産食材への信頼を支える安全・安心の確保



〈水稻と園芸作物の複合化経営〉

左：水稻+ねぎ栽培、右：水稻育苗ハウスでのフリージア栽培



〈特色ある農畜産物のブランド化推進〉

左：なじ新品种「加賀しずく」、右：能登牛

新たな「いしかわの食と農業・農村ビジョン」の概要

◇食と農業・農村を取り巻く環境

○農作物の価格低迷等により、農業者の経営は厳しさを増しているほか、農業者の高齢化や農業の担い手不足が進み、鳥獣被害の増加等も相まって、里山の荒廃が懸念される状況となってきた。

○北陸新幹線金沢開業や世界農業遺産の認定による観光客増加を受けて、県内の飲食店等では、特色ある県産農畜産物の取扱量が増えており、さらなる需要が期待される。

○企業、新規就農者等の多様な担い手が増加し、さらに、他産業と連携した生産性向上やコスト削減等の新たな取組みが進められている。

◇取り組むべき施策の体系（4つの柱と18の重点課題）

【農業の成長産業化＝産業政策】

施策の柱と重点課題

施策の方向

主な取組み

1 次世代に向けた他産業との連携による農業の収益性の向上

- ①企業等の技術・ノウハウを生かした生産性向上の取組みの推進
- ②食品産業と連携した新商品開発等の6次産業化の推進
- ③気候変動に対応し得る新技術の開発と普及

- 革新的な米の低成本生産技術の開発・普及
- ICT技術等を活用した園芸生産技術の開発・普及
- 企業のノウハウを活用した生産管理手法の普及
- 6次産業化に向けたビジネスプランの作成やノウハウ取得の支援による人材育成
- 大学等との連携による長期的な視点に立った新品種や新技術の開発

成果指標：担い手の米生産費の4割削減（16,000円/60kg→9,600円/60kg）

- ・コマツと連携した米生産コスト4割削減技術の普及、ICTブルを活用した簡易なほ場整備手法の検証
- ・コマツ・東レと連携した高収益型施設園芸モデルの確立
- ・トヨタと連携した生産工程の効率化推進

2 ニーズの変化に対応した生産・販路の拡大と海外展開

- ④農業を取り巻く情勢の変化に対応した複合化・多角化の推進
- ⑤需要者のニーズに対応した生産・販路の拡大
- ⑥特色ある農畜産物のより一層のブランド化の推進
- ⑦食文化の総合力を生かした県産食材の海外展開
- ⑧環境と調和した農業の推進
- ⑨幅広い食育と地産地消の推進
- ⑩県産食材への信頼を支える安全・安心の確保

- 品目の組み合わせによる複合化や6次産業化等の経営の多角化の推進
- オリジナル品種の生産・販売体制の確立
- ニーズのある品目の安定出荷に向けた県産農畜産物の生産拡大
- 首都圏等での魅力発信と販路開拓
- 特色ある県産農畜産物のさらなるブランド価値の向上
- ブランド化に意欲のある産地の競争力強化
- 消費者・需要者のニーズに応える試験研究の推進
- 県産食材等の魅力発信による新たな海外展開とインバウンド消費の拡大
- エコ農業から有機農業まで環境保全型農業の普及
- 大人を含めた幅広い層への食育など県産農畜産物の需要喚起
- 安全・安心に向けた食品表示や生産工程管理の取組みの指導・啓発

成果指標：担い手1経営体あたり農業産出額の4割拡大（1,500万円/経営体→2,100万円/経営体）

- ・活性化ファンド等を活用した複合化・多角化支援
- ・米新品种「石川165号」の名称募集、PR等による定着促進
- ・青果物産地の広域化による生産拡大の支援、能登牛・能登豚の生産量の確保に向けた体制整備
- ・百万石マルシェや県アンテナショップでのフェアの開催
- ・ルビーロマン・エアリーフローラ等のブランド化の推進等
- ・产地が行うブランド化・販路拡大への支援、特別栽培農産物認証制度の創設
- ・意欲ある農業者に対する海外販路開拓の支援
- ・いしかわ耕稼塾の駅前アカデミー、奥能登直便行の取組み拡大等

3 地域の農業を担う多様な担い手の活躍の支援

- ⑪新規就農者の確保・育成と担い手のスキルアップ支援
- ⑫企業等の農業参入の促進など意欲ある担い手の確保
- ⑬女性が活躍できる環境整備
- ⑭担い手の経営発展に向けた農地集積等の促進
- ⑮多様な担い手のニーズに対応した農地整備の推進

- 県外からのUIターン希望者の移住就農の促進
- 就農希望者・新規就農者や担い手等の農業人材の育成
- 農業参入総合支援プログラムの活用による企業の農業参入の促進
- 農業分野での女性の活躍推進
- 農地中間管理事業を活用した農地集積の促進
- 低コスト省力型農業の実現に向けた基盤整備の推進

- ・首都圏の相談センターにおける就農相談会の開催、就農希望者に対する短期体験研修の実施等
- ・いしかわ耕稼塾における各種研修の拡充
- ・女性農業者の経営企画力向上に向けた新商品開発や販売手法の修得支援
- ・ICTブルを活用した簡易なほ場整備[再掲]等

4 地域の強みを生かした里山の振興

- ⑯多様な地域資源を活用した生産づくりの推進
- ⑰スローツーリズム等による人を呼び込む農村づくりの推進
- ⑱農村の多面的機能の発揮と安全・安心な地域づくりの推進

- 生産づくりの促進のための里山振興ファンドによる支援の充実
- 世界農業遺産「能登の里山里海」のさらなる価値の向上と魅力発信
- 農家民宿を核に「食」をはじめとする里山里海の魅力を提供する「石川型スローツーリズム」の推進
- イノシシ等の鳥獣被害の防止と里山ブランドとしてのジビエの利活用の促進

成果指標：農家民宿・レストランの来訪者数 14,000人/年→20,000人/年

- ・里山振興ファンドの拡充53億→120億円
- ・体験学習により世界農業遺産の魅力や取組を発信するプログラムの創設等
- ・食を中心とした魅力のネットワーク化や滞在メニューの開発への支援等
- ・ジビエ料理コンテスト・フェアの開催等

【農村地域の活性化＝地域政策】

◇目標年度：平成37年度（10年後）とし、5年後を目途に見直しを検討